

セキュアな情報共有を手軽に実現  
一歩進んだビジネス・スタイル

## デジタル・コラボレーションとは



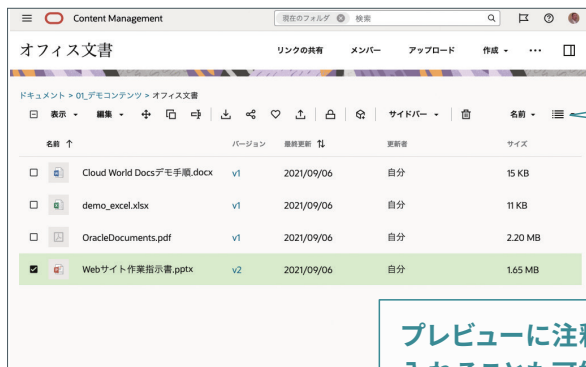
クラウド技術の発展は、ビジネス・パーソンの働き方に変化をもたらしました。その最たる例が、部署や企業の壁を越えた情報共有です。クラウドのファイル共有サービスを利用してファイルを共有することで、ビジネスをスピーディーに進めている人は少なくないでしょう。しかし、秘密にしておきたいファイルまでクラウドで共有されてしまうのではないかと心配している企業は少なくありません。オラクルは一歩進んだビジネス・スタイルとして「デジタル・コラボレーション」を提案します。デジタル・コラボレーションのスタイルでは、「便利」であることはもちろん、「安全」にファイル共有ができなければなりません。また、コラボレーションの形はファイル共有だけではなく、イントラサイトも有効なコラボレーション手段です。「デジタル・コラボレーション」の世界をのぞいてみましょう



# より「便利」で「安全」なファイル共有

## わかりやすいメニューで簡単にファイル共有できるコラボレーション基盤

「Oracle Content Management」は使いやすいUIで簡単にファイル共有できます。さらに、単なるファイル共有を超える有用な機能を持っています。例えば、ファイルを共有しながらの会話を可能にする機能も備えています。ファイルを見ながら会話をする事で、情報共有をより円滑なものにします。会話の履歴は資料のログとして活用できます。過去の会話を検索して、資料を再利用することも可能です。また会話のみのスレッドを作成することも可能です。一対一だけでなく複数人が参加するコミュニケーションツールとして活用できます。



わかりやすい  
ドキュメント共有メニュー

プレビューに注釈を  
入れることも可能



ファイルのプレビュー

プレビューを  
見ながら会話



ファイルやフォルダを  
起点にした会話で、  
情報共有をより  
円滑なものにできます

社内のモバイルチャット  
にも活用可能



## メール添付ファイルの情報漏洩のリスクを解消

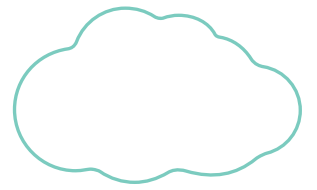
社外とのやり取りで広く使われているパスワード付きZIPファイルのメール添付(PPAP方式)。しかし、添付ファイルの漏洩予防対策にはなりません。パスワードが漏洩する可能性もあります。ファイルの送信ミスを取り消すこともできません。Oracle Content Managementなら、クラウド上で共有フォルダを設定し、アクセス可能ユーザーを限定することができます。よりセキュリティを高めるため外部ユーザーを利用者登録することも可能(無償)です。メールでのファイル添付という運用を廃止することができます。

ファイル共有の旨を連絡



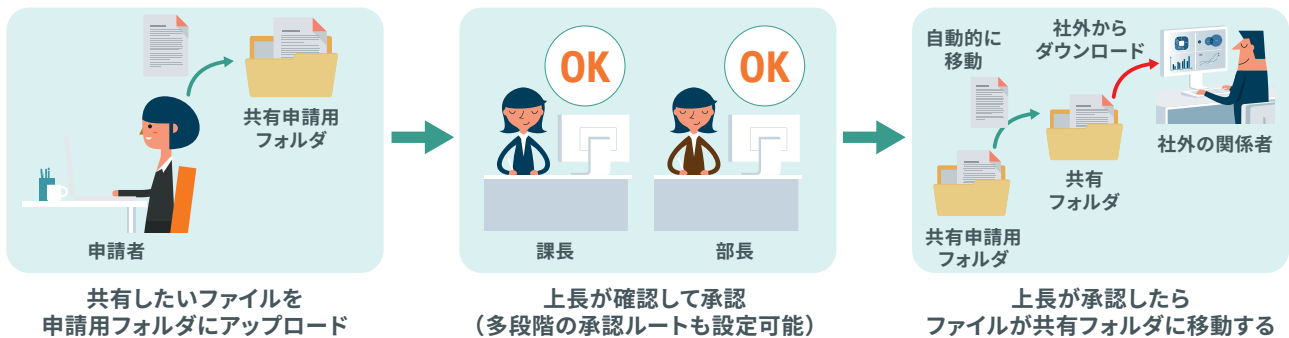
ユーザー課金ではないため  
外部ユーザーを気軽に登録!  
安全に認証できます



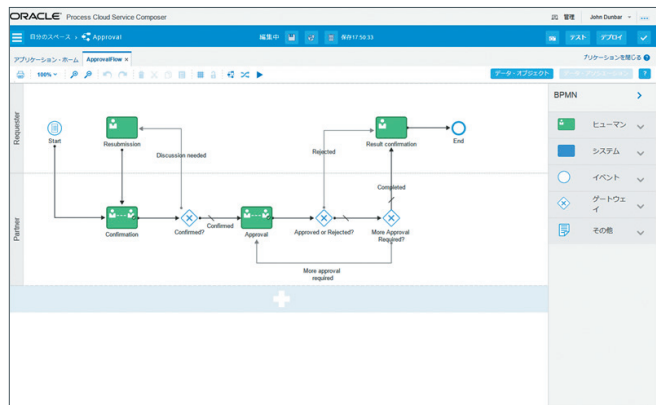


## ワークフローを設定して、承認を得たファイルだけを外部に公開

「Oracle Content Management」は、ビジネス・プロセス管理サービス「Oracle Integration Cloud/Process」と連携することで、関係者の承認を得てからファイル共有を始めるワークフローを設定できます。共有する前に、本当に共有すべきかどうか関係者が確認することで、機密漏洩を防ぎ、「安全」を確保します。さらに、公開承認のプロセスを自動化することで、ビジネスの「スピードアップ」も実現します。

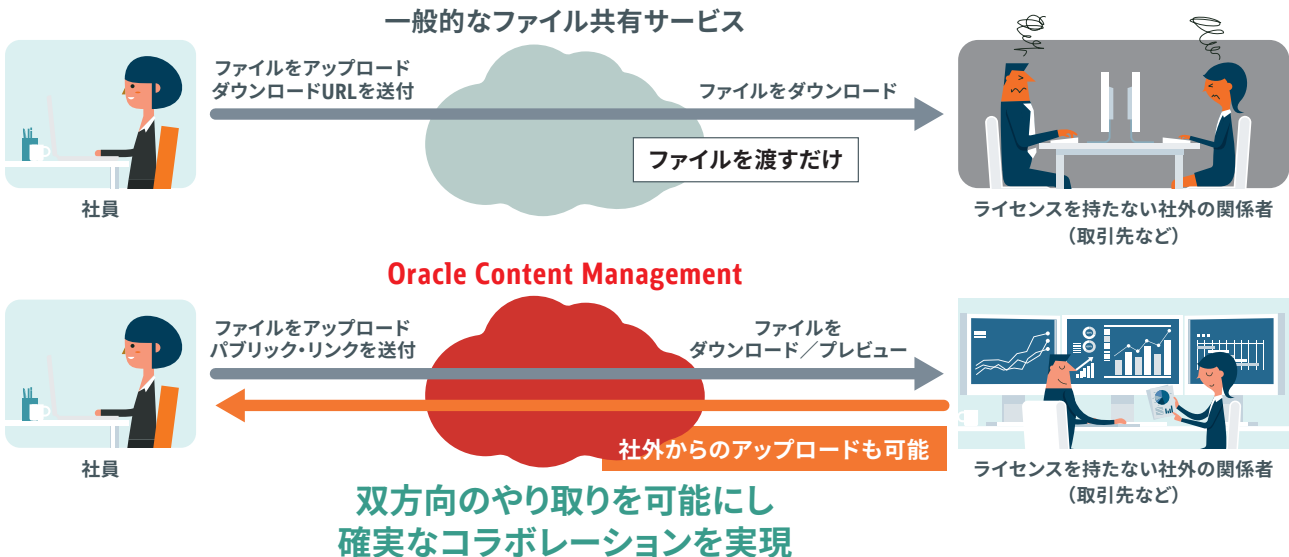


承認ワークフローは  
GUIで簡単に設定できます



## 社外からのダウンロードだけでなく、アップロードも可能

社外の関係者とファイルを共有するときは「パブリック・リンク」というURLを利用します。パブリック・リンクにアクセスした関係者は、ファイルをダウンロードするだけでなく、アップロードすることも可能。パブリック・リンクにはパスワードや有効期限を設定できるので、セキュリティの面から見ても「安全」で確実です。



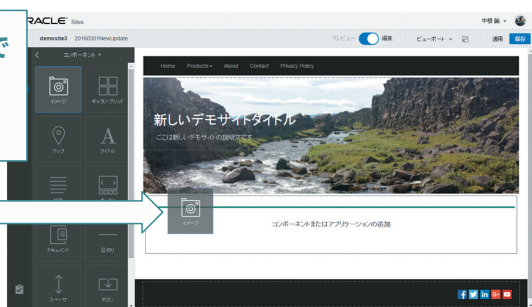


# 情報発信・共有にイントラネットを活用

## ドラッグ&ドロップで簡単かつ素早くモバイル対応サイトを作成

「Oracle Content Management」を使って、イントラサイトやお客様向けキャンペーンサイトが簡単に作れます。写真や文字などの要素をドラッグ&ドロップするだけで「レスポンス・デザイン」のページの出来上がり。イントラサイトやキャンペーンサイトを作ったが、面倒であまり更新できていないという方でも、これなら常に最新情報が載っているWebサイトを簡単に作れます。社外での作業が多い営業やフィールド・サービスの担当者、社外の販売店や代理店に対して、いつでも、どこでも、どのデバイスからでも、常に最新の情報を分かりやすい形で届けることができます。

ドラッグ&ドロップで簡単にページを作れます



パソコンでもモバイル機器でも自然な形で見ることができる「レスポンス・デザイン」のページが出来上がります



## アクセス履歴を見て、情報がきちんと届いているか確認

イントラネットで情報を公開したら、しっかり見てもらっているかが気になるところです。「Oracle Content Management」でイントラサイトを作れば、公開したページやファイルに、誰がいつアクセスしたか確認できます。この記録を見て、まだサイトの情報にアクセスしていない人に警告を出せば、必要な人へ確実に情報を伝達できるでしょう。

DocsOverview20150115.pptx				
ファイル・プロパティ	アクティビティ	バージョン	時間	実行者
アクセス履歴 バージョン履歴	ダウンロード	v1(現行)	今日 17:50	自分
	表示	v1(現行)	今日 17:18	自分
	ダウンロード	v1(現行)	今日 15:45	20150115OURSDoCS
	表示	v1(現行)	今日 14:53	20150115OURSDoCS
	ダウンロード	v1(現行)	昨日 19:01	20150115OURSDoCS
	表示	v1(現行)	昨日 19:00	20150115OURSDoCS
	表示	v1(現行)	昨日 18:45	Shinji Watanabe

ファイル単位でアクセス履歴を確認できます



## 300ドル分の無料トライアルで Oracle Content Managementのフル機能を体験!

Oracle Content Managementは300ドル分無料でお試しいただけるトライアルサービスをご提供しております。無料トライアルのお申込み方法の詳細は、右のQRコード、または下記URLにアクセスしてください。



<https://www.oracle.com/jp/cloud/free/>

Oracle Content Management のユースケースや導入事例、資料、価格などの詳細情報は、下記URLにアクセスしてください。

<https://www.oracle.com/jp/cloud/paas/dx/overview/>

\*OracleとJavaは、Oracle Corporationおよびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Copyright© 2021, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

日本オラクル株式会社

〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル 青山センター  
[oracle.com/jp](http://oracle.com/jp)

お問い合わせ窓口



TEL 0120-155-096  
URL [oracle.com/jp/contact-us](https://www.oracle.com/jp/contact-us)